

京都のみち 2040（仮称）の構成

基本コンセプト

- ・京都府総合計画（仮称）でめざす京都府の社会像について、道路が担うべきこと（中長期的な道路整備の方向性）を示す
- ・計画期間は、京都府総合計画（仮称）の計画期間を踏まえ設定

第1章 はじめに

<記述内容>

- 新たな道づくり計画を策定する背景・趣旨
- 10年間の成果
- 現状分析・課題

- ・京都府の道路整備の方向を示す「京の道づくり重点プラン」を平成20年に策定し、目標年次の10年が経過
- ・京都縦貫自動車道の全線開通、新名神高速道路の整備促進等
- ・高速道路のミッシングリンクの存在
- ・自然災害の多発・激甚化、道路施設の老朽化の進展等
- ・道路政策に反映すべき新技術やサービスの概念の登場（ビッグデータ・AI・IoT等の活用、自動運転、スマートシティの発展等）

第2章 将来構想

<記述内容>

- 京都府総合計画（仮称）が示す20年後に実現したい京都府の将来像
- 20年後の道路の姿

○京都府の将来像（20年後の社会像）

- I 人とコミュニティを大切に共生の京都府
- II 文化の力で新たな価値を創造する京都府
- III 豊かな産業を守り創造する京都府
- IV 環境にやさしく安心・安全な京都府



○20年後の道路の姿

- 1 日常生活を支え、すべての人にやさしい道
- 2 豊かな文化・景観資源を活かし、相互に魅力を高め合う道
- 3 効率的な移動を支え、産業の発展を生み出す道
- 4 災害に強く持続可能な社会をつくる道

第3章 将来構想を実現するための道路施策

- 1 日常生活を支え、すべての人にやさしい道
 - 1-① 安心・安全な道路空間の確保
 - 1-② 歩きたくなる健康まちづくり
 - 1-③ 市街地・街並みの形成
 - 1-④ 交通結節点の利便性向上
 - 1-⑤ 中山間地域における持続可能な交通の確保
- 2 豊かな文化・景観資源を活かし、相互に魅力を高め合う道
 - 2-① 地域の文化を活かした道路空間の形成
 - 2-② 地域間の周遊の促進
- 3 効率的な移動を支え、産業の発展を生み出す道
 - 3-① 物流の高度化の促進
 - 3-② 交通渋滞の解消
- 4 災害に強く持続可能な社会をつくる道
 - 4-① 防災・減災、国土強靱化の推進
 - 4-② 戦略的なアセットマネジメント
 - 4-③ 環境にやさしい社会の仕組みの構築

第4章 将来に必要な広域道路ネットワーク

<記述内容>

- 広域道路ネットワークにおける拠点と求められる機能
- 京都府の将来に必要な広域道路ネットワーク

第5章 計画の運用

<記述内容>

- 計画の運用方針、目標、事業の進め方、中間評価と計画見直し